

まとめ

本研究により同定されたゼブラフィッシュとトラフグの新規免疫グロブリン遺伝子 (IgT) は、これまで同定された免疫グロブリンクラスと以下の点で大きく異なる。

- ① μ 遺伝子座の上流に免疫グロブリンモチーフを備えた定常領域 (C_τ) が存在する。
- ② C_τ のすぐ下流に2つの膜結合領域 (TM) が存在する。
- ③ C_τ の上流に、 C_μ とは別の D_H 領域と J_H 領域が存在する。

μ 遺伝子座の上流で同定された C_τ セグメントは、ゼブラフィッシュで4つ、トラフグで2つであった。また、 C_τ の上流に存在する D_H セグメントは、ゼブラフィッシュで4つ、トラフグは1つであった。 J_H セグメントはゼブラフィッシュで2つ、トラフグで1つとなっており、それぞれのセグメントにおける数は異なるもののその構造はまったく同じであった。しかしながら、ゼブラフィッシュ IgT とトラフグ IgT はその相同性が14.1%と低い上に、ドメイン数にも違いがあるため、これらの免疫グロブリン遺伝子が同じであるかについては、今後の研究が必要である。